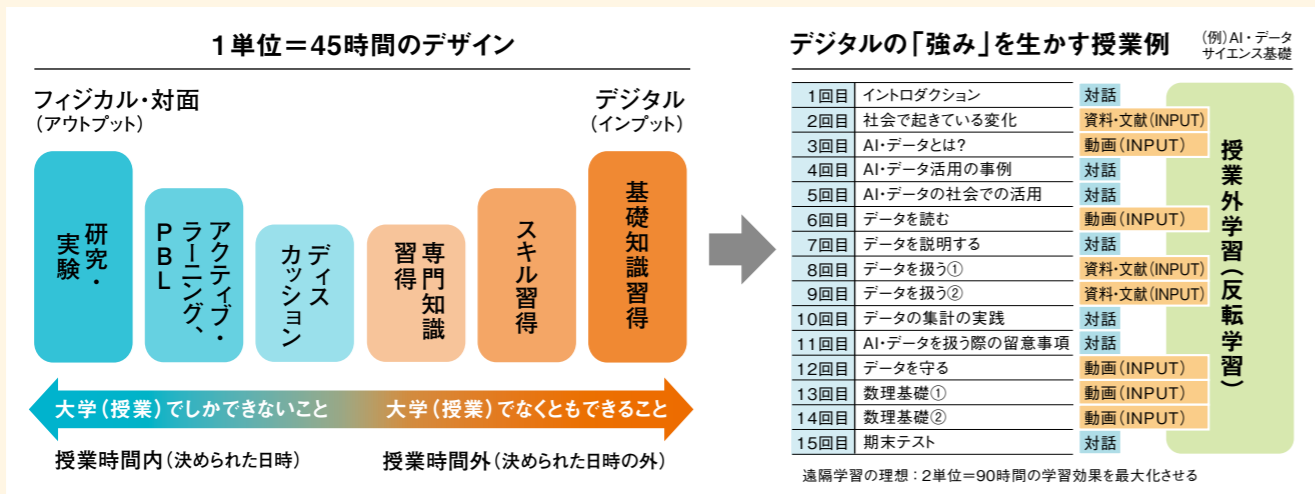


【図表3】with遠隔学習の教育改革例 <授業設計を変える>



【図表4】with遠隔学習の教育改革例 <大学間・地域連携活動に応用>

	国立A大学 ブレンディッド学習を大学間連携授業へと発展	私立B大学 遠隔ゼミのノウハウを応用し地域連携活動に応用
コロナ前	対面講義のみ	地域のHPを作成するスキルをゼミの時間に教員や先輩が指導
コロナ後	Webで授業配信→eラーニングによる事前学習と対面講義を組み合わせたブレンディッド学習へ。学生からの評判もよく、総学習時間が増加。対面講義で発展内容を扱う時間を確保	作成スキルは各自eラーニングでインプットし、ゼミの時間はWeb会議を使って議論、発表などアウトプットにあてる
発展・応用	データサイエンス教育の地域コンソーシアムにおいて、大学間連携授業実施へ	反転授業を学部教育にも活用へ、Web会議ノウハウを生かし、地域連携事業の対象エリアを拡大

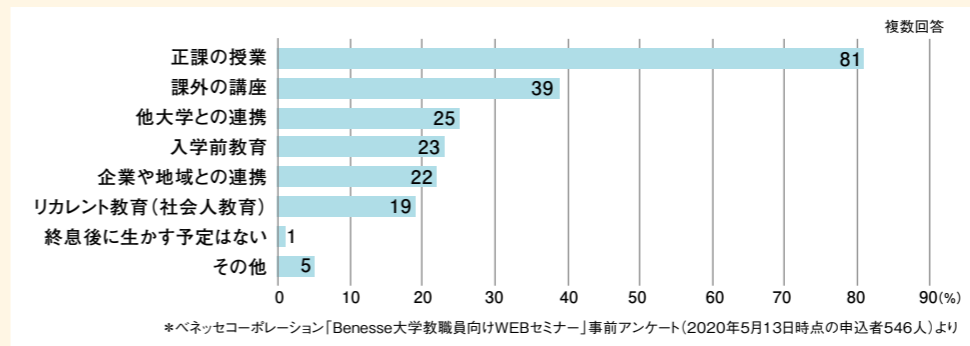
【図表1】のアンケート回答では、今後の遠隔学習について、大学間/産学官連携、入学前/リカレント教育など、「発展・応用的」な活用を検討する大学も少なくありませんでした。例えばリアルタイム配信は距離という制約を超えられるため、入学前の高校生、他大学の学生、社会人など、在学生以外の通学が難しい人々への教育に適しています【図表2】。また既製コンテンツ配信は、反転授業

【図表3】のアンケート回答では、今回の経験を通過して遠隔学習に教育の深化・発展の可能性を感じ、その継続的な実施を考えた大学も多いようです【図表1】。アメリカや中国に比べて、日本が遠隔学習の導入に「消極的だったことを考えると、むしろそこに、日本の高等教育の伸びしろがあると言えます。ひと口に遠隔学習と言ってもさまざまな形式があります。ここでは、まず大きくリアルタイム配信

【図表4】のアンケート回答では、今後の遠隔学習について、大学間/産学官連携、入学前/リカレント教育など、「発展・応用的」な活用を検討する大学も少なくありませんでした。例えばリアルタイム配信は距離という制約を超えられるため、入学前の高校生、他大学の学生、社会人など、在学生以外の通学が難しい人々への教育に適しています【図表2】。また既製コンテンツ配信は、反転授業

【図表3】のアンケート回答では、今回の経験を通過して遠隔学習に教育の深化・発展の可能性を感じ、その継続的な実施を考えた大学も多いようです【図表1】。アメリカや中国に比べて、日本が遠隔学習の導入に「消極的だったことを考えると、むしろそこに、日本の高等教育の伸びしろがあると言えます。ひと口に遠隔学習と言ってもさまざまな形式があります。ここでは、まず大きくリアルタイム配信

【図表1】コロナ終息後、遠隔学習のノウハウを何に生かしたいか



【図表2】遠隔学習の代表的な形式

リアルタイム配信	既製コンテンツ配信
<p>① インタラクティブ対話型 講義形式で、限りなく対面に近い形でリアルタイム授業</p> <p>② ワンウェイ解説中心型 パワーポイントやPDFなどの教材をベースに、音声リアルタイム形式で載せて配信する</p>	<p>③ 録画動画配信型 録画された(内製・外注)講座で学び、テストや課題提出で理解度を確認。質問は受け付ける</p> <p>④ 講義資料課題提示型 スライド資料など授業で用いる教材をアップロードし学ばせる。質問は受け付ける</p>
<p>アウトプットの機会 少人数が同時に受講</p> <p>発展・応用 入学前教育、他大学連携、リカレント教育へ</p>	<p>日時を問わない インプットの機会</p> <p>発展・応用 自学自習・反転授業へ</p>

【図表4】のアンケート回答では、今後の遠隔学習について、大学間/産学官連携、入学前/リカレント教育など、「発展・応用的」な活用を検討する大学も少なくありませんでした。例えばリアルタイム配信は距離という制約を超えられるため、入学前の高校生、他大学の学生、社会人など、在学生以外の通学が難しい人々への教育に適しています【図表2】。また既製コンテンツ配信は、反転授業

【図表3】のアンケート回答では、今回の経験を通過して遠隔学習に教育の深化・発展の可能性を感じ、その継続的な実施を考えた大学も多いようです【図表1】。アメリカや中国に比べて、日本が遠隔学習の導入に「消極的だったことを考えると、むしろそこに、日本の高等教育の伸びしろがあると言えます。ひと口に遠隔学習と言ってもさまざまな形式があります。ここでは、まず大きくリアルタイム配信

【図表4】のアンケート回答では、今後の遠隔学習について、大学間/産学官連携、入学前/リカレント教育など、「発展・応用的」な活用を検討する大学も少なくありませんでした。例えばリアルタイム配信は距離という制約を超えられるため、入学前の高校生、他大学の学生、社会人など、在学生以外の通学が難しい人々への教育に適しています【図表2】。また既製コンテンツ配信は、反転授業

【図表3】のアンケート回答では、今回の経験を通過して遠隔学習に教育の深化・発展の可能性を感じ、その継続的な実施を考えた大学も多いようです【図表1】。アメリカや中国に比べて、日本が遠隔学習の導入に「消極的だったことを考えると、むしろそこに、日本の高等教育の伸びしろがあると言えます。ひと口に遠隔学習と言ってもさまざまな形式があります。ここでは、まず大きくリアルタイム配信

Opinion

ミニオン遠隔学習で 深化・発展する大学教育



(株)ベネッセコーポレーション
大学・社会人事業推進課 課長
高田 能
たかたのう ●2007年(株)ベネッセコーポレーション入社。高校教育の支援に携わった後、2014年より、高校と大学、そして大学と社会をつなぐ教育のしくみを研究・開発している。

*1 この記事では、ICTやメディアを活用した授業、eラーニング等を「遠隔学習」という言葉で統一する
*2 ベネッセコーポレーション「Benesse大学教職員向けWEBセミナー」事前アンケート(2020年5月13日時点の申込者546人)より
*3 大学の授業におけるeラーニング導入の割合調査によると、導入率0%の大学の比率は、アメリカ16.7%、中国3.9%に比べ、日本では50.4%に上っている(ベネッセコーポレーション調べ、2020年3月実施)